

関連があると述べ、口腔周囲筋活動より弱い矯正力を用いて生理的に歯列の側方拡大を行った症例において、拡大側の頬側に骨の添加が見られたことを3D CTで示した。Dr. Damon自身、臨床で起きていることを目の当たりにして「アドレナリンが血中を駆け巡った」と話し、熱の入った講演に筆者も久しぶりにわくわくした。

Dr. Terry Dischinger (アメリカ) は、デーモンブラケットの前歯トルクの選択、ワイヤー交換の手順、エラスティックの使用法を紹介し、特にHerbst装置については自身が成人患者として用いた例を含め詳細に述べた。

初来日のDr. Tom Pitts (アメリカ) は、矯正治療の最終段階における質の高い仕上がりを達成するために必要なブラケットの位置づけ、治療の初期段階からの準備の要点、精密な最終調整のためのテクニックについて紹介し、さらに、保定や咬合器を用いることなどについて、述べた。

武内 豊氏 (千葉県開業) は、「デーモンシステムでの治療において診断・治療方針で考えること」と題して、診断がもつ3つの側面について解説した。抜歯基準として、小さな歯列弓、生理的な歯の位置、顔貌との調和の3点について述べ、

症例から実際の治療方針の立案について詳述した。新井一仁講師 (日本歯科大学) は、「その時、また歴史が動く“Bone-Growing” Returns!」と題して、EH Angleに関する貴重な映像資料とともに、その人生から歯列弓の拡大、抜歯、骨成長論と歯槽基底論などの理論の変遷を紹介した。

デーモンシステムは、本邦の著名な臨床家のサポートも得ている。症例展示をされた近藤悦子氏 (東京都開業) は、自身の著書『Muscle Wins! の矯正歯科臨床』(医歯薬出版刊) で紹介している治療理念との一致から、デーモンの装置を使用したセミナーを開催している。また、ブラケットポジショニング研究の第一人者である白須賀直樹氏 (静岡県・矯正用ラボ開業) も、デーモンブラケットのポジショニングコースを開催している。

筆者は本レポートの執筆中に新幹線から雄大な富士山を眺める機会があったが、デーモンシステムにもサポートの裾野の広さと、臨床家としての興味の広がりを感じるところである。

石野善男 Yoshio Ishino  
(東京都世田谷区開業)

## 若い力で歯科医療の未来を創る

—「若い歯科医師のための Oral Physician 育成セミナー」開催—

2007年度第1回目の「若い歯科医師のための Oral Physician 育成セミナー」を、3月25日(日)に日吉歯科診療所セミナールーム(山形県酒田市)で開催しました。今回も、学生および卒業5年以内の若いドクターや歯科衛生士たちが、全国から酒田に集合しました。

私がこうしたセミナーを開催する一番の目的は、これからの歯科医療を担う若いドクターや歯科衛生士に、夢や希望をもってこの仕事に取り組んでほしいと強く願っているからにほかなりません。歯科医療は多くの人々の健康に貢献できる素晴らしい分野なのですが、現在の日本では、医療費抑制の影響もあってか、閉塞感が歯科界全体を覆っているように見えます。そのような状況下で、

毎年歯学部を卒業して歯科医師となる若者は先行きの不安感を抱えているだけではなく、歯科医師過剰の現在、まともな就職先を探すことすら困難な状況におかれています。まず、そのような若い人たちに、歯科医療のもつ本来の価値を知ってもらい、夢をもって将来に向かっていってほしいと思ったのです。

私は数年前より、患者の真の利益を目指す歯科医療を実践するための「Oral Physician 育成セミナー」を主催してきました。これまでに多くの方々に参加していただき、セミナーの精神を臨床に活かして頑張っている方も増えてはいますが、すでに開業されている方は、開業で多くの経済的負担を負っていたり、長い間の保険診療に慣れ親しん

だ感覚から脱却できず、頭では理解していても、実際に Oral Physician として臨床を新たに作り上げることが本当に難しいのだということを実感してきました。

そうした経験から、しがらみのない在学中の学生や開業前の若い人たちに、Oral Physician としての理念を理解してもらう機会を作り、実際の日吉歯科診療所を見ることで、その理念や哲学に沿った未来の歯科医療のイメージを描いてもらいたいと思いました。

参加者の多くは、これからの歯科医療への夢を語り始め、自分の診療所をもつまでに何を勉強し、何を身につけなければならないかをしっかりと感じてくれるようです。若い力に期待したいと思います。参加者には全員、感想を書いてもらって

ますが、今回も数人の方の感想を掲載させていただくことになりました。彼らの若く柔らかな感性が素直に伸びて、これからの歯科医療に新しい風を吹き込んでくれることを心から願っています。今回ここに掲載されなかった方々の感想も、日吉歯科診療所のホームページ上に掲載されていますので、併せてご覧いただければ幸いです (<http://www.hiyoshi-dental-office.org/>)。

今後こうしたセミナー活動は続けてゆくつもりです。多くの若い方々にぜひ参加していただき、希望のある未来へ向けた歯科医療への夢を語り合いたいと願っています。

熊谷 崇 (山形県開業、「若い歯科医師のための Oral Physician 育成セミナー」主宰)

## 参加者の感想

### ●「真の患者利益とは」の衝撃

病院実習が始まり数カ月が経ち、次々と周囲の同級生が進路を決めていくなかで自分の理想の歯科医師像や将来の姿を思い描けずに悩んでいた時、周囲の先輩方の勧めがあり、何かを得たい、という思いで本セミナーを受講しました。

受講前はセミナーの内容についていけるのだろうかという不安がありましたが、セミナー中にハッとさせられることがいく度となくあり、何かを得たいというセミナー前の思いどころか、とてもたくさんのことを学ぶことができました。なかでも“真の患者利益とは”の話を聞いた時にはとても衝撃的であったとともに、自分も真の患者利益を追求したいと感じました。そして、それを実

践できる Oral Physician を中心とした医療、見学させていただいた診療所のようなハードを目標としていこうと思います。

今後、D. D. S. (Doctor of Dental Surgery) の知識や技術も多く学んでいきたいと思います。心をニュートラルにして、Oral Physician を自分の軸に多くのことを学んでいきたいと思っています。たくさんのご縁をいただくことができ、またさまざまなことを考えるきっかけとなる本当に有意義なセミナーでした。ありがとうございました。

加藤雄大 (九州歯科大学 6 年生)

### ●理想とする歯科医師像を発見

私は現在、九州歯科大学保健医療フロンティア科学分野に大学院生として在籍しています。学生時代に一度、熊谷先生の講義を聴いたことはあったのですが、わが医局の濱寄朋子先生、北九州市で開業している竹内敏洋先生、竹内裕美先生などの話を聞き、若いうちにぜひ一度、酒田市に行って日吉歯科診療所を見学したいと思っていました。

今回のセミナーでは、主に真の患者利益を求める医院づくりの話伺いました。患者さんの現状把握のため、きちんと規格化されたデータ作りの大切さや、メディカルトリートメントモデルをすべての患者さんに行い、患者さんが歳をとられて



もずっと通院していただけるようなワールドスタンダードな診療室を作ることの重要性について学ばせていただきました。帰宅後、次の日からさっそく、口腔内のカメラ撮影、カリエスリスク検査を診療に取り入れてみました。

このセミナーに参加したことで、今後の自分の理想とする歯科医師像が見つかった気がします。貴重な講演会を開催していただき、熊谷先生はじめ日吉歯科のスタッフの皆様には本当に感謝しております。ありがとうございました。

力丸哲哉

(九州歯科大学大学院3年目・保健医療フロンティア科学分野)

### ●矯正歯科にも応用できることを実感

矯正歯科専門医として参加させていただきました。矯正治療前に口腔衛生指導を十分に行ったつもりでも、治療開始後に患者さんの口腔衛生管理に悩まされることがあります。矯正治療により歯列不正が改善されてもカリエス処置が必要になってしまった場合、矯正治療の役割は何であったのか、矛盾を感じざるをえません。幼児期から口腔内を管理し、カリエスフリー患者さんの育成、患者さん自身の口腔に対する意識向上も果たしたうえで矯正治療が介入できれば、われわれの仕事もさらにやりがいのあるものとなるはずですし、意識のより高い矯正患者層の拡大にも繋がるかと思えます。

本セミナーを受講して、Oral Physician としての知識・技術が、矯正臨床にも役立つことを実感しました。厳しい現状の歯科界で、矯正歯科専門医の立場もかなり苦しくなっています。今後、Oral Physician と矯正歯科専門開業医との連携が広がり、真のゴールに向かって手を取り合っていけたら素晴らしいと思います。

澤田美穂 (さわだ矯正歯科・開業準備中)

### ●Oral Physician の概念をふまえた治療を

現在自分は長年勤めた大学病院を退職して、開業準備をしています。経営を考えると、質より量を取らざるをえず、歯学部で学び、大学病院で行っている歯科治療と、開業してから行える治療が大きくかけ離れていることに悩んでいました。



しかし、根本的な違いは経営以前にあると今回のセミナーで教わりました。

今の治療は、「削って詰める」という、病巣に対して非可逆的な、外科的な治療です。歯学部を卒業すると取得できる D. D. S. という学位はこのため、外科的な治療が中心なのは、日本独特の歯科治療スタイルなようです。

患者さんの痛みを取り除く対処療法で手一杯だった古き時代から、丁寧な治療を提供するため予約制が主流となった歯科界ですが、現在は、健康を維持増進する治療にシフトする時期に来ていると思います。患者さんの一生涯の口腔を包括的に診る予防中心の内科的な Oral Physician としての治療が、世界的には主流となっているように思われます。

D. D. S. に徹する専門医も必要ですが、やはり Oral Physician という概念を十分に理解したうえでのことだと痛切に感じました。若手歯科医師の意識が変わることで、日本の歯科界も変わるでしょう。将来は日本国民の健康増進に貢献できるようにしていきたいです。ありがとうございました。

澤田宏二 (さわだ矯正歯科・開業準備中)

### 2007 年度「若い歯科医師のための Oral Physician 育成セミナー」開催予定

日時：11月23日(金・祝)

場所：山形県酒田市・日吉歯科診療所

申込先：SAT 事務局

Tel. 03-5805-2505, Fax. 03-5805-2506

<http://www.sat-iso.net>